

8月24日（土）

大阪・サンパウロ姉妹都市提携55周年記念式典

午前10時よりブラジル日本文化福祉協会本部ビルにおいて、サンパウロ・大阪姉妹都市委員会が主催する大阪市・サンパウロ市姉妹都市提携55周年記念式典に出席した。式典は3部構成で行われた。

第1部では、高木サンパウロ・大阪姉妹都市委員会委員長のあいさつに続いて、清水在サンパウロ日本国総領事、高橋副市長、西副議長、野村アウレリオ・サンパウロ市議会議員、西尾ロベルト義弘 宮坂国人財団理事長、吉川秀隆大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長らが来賓として登壇した。

【高橋副市長挨拶要旨】

この度は、大阪市会代表団、大阪・サンパウロ姉妹都市協会代表団とともにこうしてサンパウロ市を訪れ、高木ラウル サンパウロ大阪姉妹都市委員会委員長、清水享在サンパウロ日本国総領事ご臨席のもと、両市の姉妹都市提携55周年をこのようにお祝いできることを大変嬉しく思う。

両市は1969年の姉妹都市提携以来、幅広い分野において交流してきた。今回の訪問にあわせ、サンパウロ市立オオサカシ小学校の姉妹校である大阪市立田辺小学校の生徒が絵画とビデオレターを作成し、昨日お届けした。このように両市の交流は、小学校間の姉妹校交流や、姉妹都市協会・委員会が行うスピーチコンテスト優勝者の相互派遣など、市民レベルの草の根交流にまで広がっている。吉川会長、高木委員長をはじめ関係者の皆様にこの場をお借りして厚くお礼を申しあげる。

さて、いよいよ来年には、大阪・関西万博が大阪のベイエリア「夢洲」で「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして開催される。ブラジルパビリオンは、「多様性の尊重」をテーマに、人、動物、森の融和的な共生を表現する展示がされると伺っている。

我々地元大阪が出展する「大阪ヘルスケアパビリオン」では、「リボーンチャレンジ」の取り組みの中で先端技術を紹介する予定である。ぜひ皆様にも大阪を訪れていただき、新たな大阪の魅力を感じていただければと思う。

最後になるが、大阪市とサンパウロ市の連携がさらに深まるよう、また、本日お集まりの皆様の健勝・ご多幸を祈念する。

【西副議長挨拶要旨】

本日は大阪・サンパウロ姉妹都市提携55周年記念式典にお招きいただき心より感謝するとともにご臨席の皆様にお会いでき大変嬉しく思う。姉妹都市提携55周年という

節目を迎えるにあたり、私たちはこれまでの交流の成果を、その意義とともに、ここに確認し、新たな時代に向けて両都市の絆が今まで以上に緊密なものとなり、友好関係がより一層発展することを祈念する。

今回の訪問で、姉妹都市提携55周年を記念した様々な行事への出席をはじめ、多くの方々との交流をさせていただき、今後とも両市の友好関係のさらなる発展に努めてまいらなければならないとあらためて感じている。

来年は「大阪・関西万博」が開催される。ぜひ、サンパウロ市の皆様にも大阪へお越しいただき、活力あふれるその姿と大阪の「おもてなし」を感じていただきたいと思う。大阪で再びお会いできることを楽しみにしている。

最後に、大阪・サンパウロ両市の今後ますますの発展と繁栄、本日も臨席の皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念し、私の挨拶とさせていただく。

来賓祝辞の後、高木委員長から、高橋副市長、西副議長、吉川会長及び大阪出身で藤間流日本舞踊学校の江口桂校長の4名にそれぞれ姉妹都市提携55周年の記念品が手渡され、藤間日本舞踊学校の藤間芳誠師匠・藤間芳琴師匠、ミカ幼稚園の辻本和恵園長の3名にサンパウロ市における日本文化・教育の普及に貢献いただいたことに対する感謝状が贈られた。

第2部では、アトラクションとして、ミカ幼稚園の園児により『ミッキーマウス』『KENKA』といった演目で和太鼓の演奏が行われた後、藤間日本舞踊学校の門下生らが『吹き寄せ舞の彩どり』をテーマに祝賀舞踊を披露した。

最後に、第3部として祝賀昼食会が行われた。ジェトロサンパウロ事務所の井上徹哉所長の発声で開始し、姉妹都市提携55周年を祝うとともに両市の友好関係の継続を願った。



(挨拶する西副議長)



(祝賀昼食会でのケーキカットの様子)

日本移民史料館視察

大阪・サンパウロ姉妹都市提携55周年記念式典の終了後、ブラジル日本移民史料館を視察した。同館は、ブラジルに渡った日本人移住者の記録を保存し、後世にその歴史を伝えるという使命のもと1978年に開館し、ブラジル日本文化社会福祉協会が管理運営を行っている。

同史料館は同協会ビル内に位置し、日本人移住者の歴史やブラジルへの最初の日本人移住者を乗せた笠戸丸の模型や上陸当時の日本人移住者の写真が展示され、当時の生活の様子が見られる展示が行われている。



(館内の様子)

別のフロアでは時代が進み、日本人移住者がコーヒーだけでなく綿やお茶など新しい栽培種を導入しブラジルでの農業の多角化に取り組んだこと、また、第二次世界大戦が勃発しブラジルと日本が敵国関係となったが、戦後は日本からの移住が再開、日本企業のブラジル進出などを経て現在に至るまでの日本人移住者の歴史が当時の生活用品などを通してよくわかるように展示してある。

日本館視察

イビラプエラ公園は、サンパウロ市政400周年を記念して作られたサンパウロ市内南部に位置する公園であり、その公園内に日本館がある。日本館の玄関前には大阪・サンパウロ姉妹都市提携40周年を記念して、大阪・サンパウロ姉妹都市協会が贈呈したみおつくしの鐘のレプリカが展示されていた。日本館は、桂離宮を模して設計され、柱や瓦はもちろん日本庭園の石材にいたるまで日本から持ってきた資材を用いた、日本以外においては珍しい純和風建築建物である。

同公園内には1975年に日本人移住先駆者の霊を慰めるために建立された開拓先没者慰霊碑がある。日本人移住の初期には日本から遠く離れ、言葉も文化も異なる国において病気や厳しい環境と戦いながら亡くなった先人たちを慰霊するために建立されたものである。

慰霊碑は、現在はブラジル日本都道府県人会連合会が管理している。

慰霊碑では大阪市会代表团、大阪市代表团、大阪・サンパウロ姉妹都市協会による献花を行った。



(日本館について説明をうける代表团)



(慰霊碑に献花を行う西副議長)

憩の園訪問

第二次世界大戦中、日本とブラジルの間の関係悪化によりブラジル国内で迫害を受けた日本人移住者を救済する活動を日本人救済会が開始し、その後1958年に日系の高齢者を対象として本施設は開園された。

「高齢化に伴いお年寄りにどんな障害が現れても、各自が認められ愛され、その可能性を活かして最後までその人らしく生きられるよう、良い環境づくりと良いお世話に専念する」ことを役割として、現在まで運営されている。

市会代表团は、施設の歴史などを紹介している資料室を見学した後、施設内を案内いただいた。



(憩の園において説明を受ける代表团)



(憩の園外観)

【終わりに】

現地での活動は3日間という限られた時間であったが、すべての訪問先で温かく迎えていただき、多くの方と交流することができた。

一方、現地での大阪市とサンパウロ市との交流を支えていただいている団体において高齢化や若者世代の意識の変化などにより交流活動の担い手不足という課題も共有することができた。

また、ブラジルは日本から遠い国でありながら、海外最大級の日系社会が存在しており、通訳を通さずにコミュニケーションをとることができる場面も多く、密にコミュニケーションを図れた。

サンパウロ市では、大阪に対して強い親近感を持つ多くの方々と交流し、デジタル化の時代にあっても実際に現場を訪問して自分の目で確かめ、直接人々とお会いし、話し合うことの重要性を改めて感じた。

最後に、今回の海外出張に際し、事前の準備及び現地での案内、随行等でお世話になった大阪・サンパウロ両市の関係者に心からお礼を申し上げる。